



# 第1回 西区生涯学習ルームフェスティバル

in ハウスビルシステム西区民センター

7月6日(日)に「第1回西区生涯学習ルームフェスティバル」が開催されました。記念すべき第1回ということで、私たち取材チームもワクワクしながら会場の西区民センターへ向かいました。開催前に生涯学習推進員西区代表の小山勢津子さん(明治小学校)、副代表の堤静子さん(西船場小学校)・演田良太さん(九条北小学校)にお話を伺うことができました。



## 企画の始まりと隠れた想い

フェスティバルをやると決まったのは、実は去年の4月なんです。そこから1年間かけて、みんなで話し合いながら準備してきました。他の区がすでにやってるから、後発の私たちとしては「やっぱりいいものを出さないと!」っていう気持ちが強かったですね。西区は小学校の数が少ないから、スタッフもたくさん出せないんですよ。他の区のフェスティバルも見に行きましたけど、1回目から同じようにはできない。区民まつりは出てたんですが、「これだけでいいのかな?」って疑問に思っていて。どの区もそうだと思うんですが、推進員さんは高齢の方が多くて、でも活動には

熱い想いを持った方がたくさんいるはずなんです。その想いを形にできたら、新しい推進員も入り、担い手も増えるんじゃないか、というのが、この企画の最初の入口でした。区民まつりは確かに華やかだけど、生涯学習フェスティバルとはそもそも目的が違うんです。区民まつりで「いいな」と思っても、それが生涯学習本来の形ではない。やっぱり「生涯学習らしさ」は、生涯学習フェスティバルじゃないとできないことなんじゃないかなって。それでみんなで「とにかく1回やってみよう!」と始まったんです。

## 予算と人員の壁を越えて

この1年間は、他の区のフェスティバルも勉強させてもらいに行きましたね。スタッフの数も少ない中で、こういうやり方が良いか、次に繋げられるかをずっと考えていました。みんながしょっちゅう集まれるわけじゃないですから月1回集まって話し合える内容は結局限られています。だからできるだけ短時間でスピーディーに進めなきゃいけない、という時間的な制約も大きかったですね。まずは各ルームでできることをしっかりやってもらって、全体を進めてきました。イベント開催では予算も大切です。来場者のみなさんも楽しんでいただけるので、物販も行って生涯学習以外で協力いただ

く方々やゲストの方へのお礼にもしたいと思っています。



ゲスト「西区子ども会鼓笛隊」のみなさん

## 生涯学習の「新しい見方」を求めて

来てもらって見てもらえることが本当に大事なんです。生涯学習の活動を広く知ってもらうのは非常に難しい。「生涯学習って何?」「お年寄りのもの?」みたいなイメージも大きいですね。そういうものも含めて生涯学習の見方が何か変われば、いいなと思っています。今年成功してもなくても来年につなげたいんです。開催をむかえて正直不安じゃないです。例えば、雨が降ったらどうしよう…天候が良いなら熱中症が心配になるし。去年の時点では、選挙があるかもしれないという話もあって、そうなったら7月はダメで2月しかないね、って話にもなってたんですけど2月、3月って生涯学習ルームフェスティバル開催が多い時期なので、他の区と重ならない時がいいなと話合った結果、他の区と日程が重ならない時期で、西区全体で行事が少ない時期を考えたら、この7月になったんです。

## 全員参加で描く、生涯学習の未来!

今回の来場者が「私もこんな活動に参加したい!」って思ってくれたら、新しい担い手ができて、もっと活動を大きくしていけるんじゃないかなって。あと「広める」ってなかなか難しいですね。まだまだ「生涯学習」っていう言葉は弱いと思います。

でも、弱いものだからこそできることってあると思うんです。なんでも丁寧になれる。その丁寧さが生涯学習にはあるんじゃないか。「生涯学習らしさ」をどこまでも追求したいと思っています。

## フェスティバルレポート

### 西区、熱狂! 大成功の幕開け!

7月6日午前10時、西区民センターに集まった多くの来場者が見守る中、小山区代表の力強い挨拶を合図に、記念すべき「第1回西区生涯学習ルームフェスティバル」が華々しく幕を開けました。



開幕の挨拶をする小山区代表

この日を待ち望んだ参加者たちの熱気で、会場は開演前から活気に満ちあふれていました。ホール内のステージでは、日頃の練習の成果を披露するべく、生涯学習ルームのグループと、3つのゲストグループが次々と登場。コーラスの美しいハーモニー、楽器演奏の迫力ある音色など、多岐にわたるジャンルの発表が繰り広げられました。出演者たちは、それぞれの発表に込めた想いを全身で表現し、観客はその一挙手一投足に真剣なまなざしを向け、惜しみない拍手を送っていました。普段の学習の場とは異なる大舞台で、日頃の努力の成果を存分に発揮する出演者のみなさんの姿は、観客に大きな感動と活力を与えているようでした。ホール後方では来場者の目を引く多様な展示が催されていました。繊細な筆致が光る書道作品、色彩豊かなフラワーアレンジメント、そし

て温かみのあるさをり織りなど、それぞれの作品からは、作り手の並々ならぬ熱意と技術がひしひしと伝わってきました。



また、これらの展示に加えて、誰もが気軽に楽しめる体験コーナーやひと休みできるフードコーナー、飲食スペースが設けられ、会場全体が活気に満ちあふれていました。



## 情熱が形となって実を結び

初の試みながら大きな成功を収めた「第1回西区生涯学習ルームフェスティバル」について、お三方に感想や今後の展望を伺いました。

「第1回目にして、こんなに沢山の方に参加、そして見に来てくださったことが、1番うれしかったです」と、喜びを語っておられました。「後から作るんだから、いいものをつくらない」という強い思いのもと、経験のないことに全力で取り組みました。今回の成功は、多くの協力があつてこそ。忙しい中でフェスティバルのために時間を費やしてくれたすべての人々に深く感謝しています。推進員の方々の並々ならぬ想いや努力が報われ

た気がしました」と、達成感をにじませておられました。「特にこだわったのは時間の配分。参加者との綿密な連絡が難しい状況でしたが、無事に遅れることなく進行できたのは本当に良かった」と、スムーズな運営に安堵されたそうです。

## 第2回はさらなるパワーアップへ

第1回は「合格点をもらえた」と手応えを感じつつも、第2回に向けて既に改善点を見すえておられます。例えば、発表後の写真撮影時間の検討や、参加者とのより綿密な事前打ち合わせなど。「細かいところで抜けているものはありましたが、それを次に活かしていきたい」と意欲を語られました。

## 来場者の声が最高の褒め言葉

どのコーナーも盛況で、来場者からは温かい感想が多数寄せられました。中でも「内容が充実していて、とても楽しかった」という声が印象的だったそうです。「暑い中、本当にありがとうございました」と来場者への感謝を述べつつ、『「また来年』と言わず、生涯学習ルームへぜひお越しください。待っています」と、今後の生涯学習活動への参加を呼びかけておられました。今回の成功で、西区の生涯学習活動がさらに発展していくことに期待が高まります。

## 取材後記



他の区の事例を見て学び、丁寧さや温かさ、人とのつながりを大切に西区の「生涯学習らしさ」を追求してきた過程は、未来へ歩みを進める確固たる決意を感じるものでした。この歴史的な“第1回”に立ち会えたこと、心より光栄に思います。第2回、第3回と回を重ね、永く続いていくことを願ってやみません。